

かたらい 41号

2015 春

特別企画

「おやじから子どもたちへ 遊びの楽しさを伝えたい」



目次

- p2 小金井三小おやじの会に聞く
- p6 小金井で働く
「子どもの想いをメレンゲドールで叶える」
- p8 国際比較
「ペルーと日本の架け橋をめざして」
- p10 第28回 こがねいパレット
ゆる家事って、なあに？
～今の暮らしに魔法をかけよう～



おやじから子どもたちへ 遊びの楽しさを伝えたい

国の経済政策の中に、久しぶりに女性の活躍を支援する政策がありますが、そこには「女性の支援をする」とだけしか書いていません。しかし、保育所の問題などは別にして、実は日本は、かなり女性の社会進出に関しては先進的な制度が作られています。それでは何故こうも男女平等が進まないのか。それは、男性が大きな要因として考えられます。最近、イクメン、イクボス、という言葉が生まれてきましたが、これからは男性の意識を変えることに力を注がないと、本当の男女平等社会は来ないのではないのでしょうか。その中で、父親も育児や子育てなど、子どもたちと楽しんで遊んでいくというスタイルが出てきています。今回は、小金井市立小金井第三小学校の「おやじの会」に焦点を当て、「おやじの会」の創設者の小林浩さんと、世話人代表の神田潤さんのお二人にお話を伺うことにしました。

「おやじの会」ができたのは？

「おやじの会」ができたのは、2006年に小林さんが小金井に引っ越してきたのがきっかけです。もともと小林さんは、新宿に住んでいたとき、幼稚園で夏にイベントを行ったりして、「おやじの会」の原点になるようなイベントを企画していました。次に四国の高松で、「おやじの会」に出会い加入したそうです。そして、2007年に、第三小学校のPTA会長から、「おやじの会」を作ってくれないかと打診がありました。まず、2008年の夏に、夏休みお泊り会を、実施しました。学校に泊まって親子で遊びや炊事をすることが、様々な意義があると感じた

からです。ほとんど一人で企画するのは大変でしたが、充実した気分を味わったといえます。

2009年に神田さんが加入し、人数も増えて、PTAの中の組織として存在感を増していきました。その後、PTA所属のボランティア団体として、PTAから補助を受けながら活動しています。現在、現役とOBで登録メンバーは35名、そのうち中心となって活動しているのは15名です。

「おやじの会」のイベント

「おやじの会」では、月に1回は集団遊びをやっています。また、夏休みには、親子で学校の体育館に泊ったり、



左：小林さん 右：神田さん

魚のつかみ取りをしたり、親子で夕食を作ったりして楽しめます。そのほかには地域のお祭り「エコサマーフェスティバル」や、緑中学校の生徒の放課後の居場所作りも行っています。また東京学芸大学で開催されるキッズカーニバルや第三小学校の学童のお祭りである「あかね祭り」にも参加しています。

月1回のイベントでは、40名から90名の子どもたちが集まります。内容はドッジボール、宝取り、鬼ごっこ、大縄水鉄砲合戦、新聞紙チャンバラ、など



様々です。現在、子どもたちが大人数で走りまわったり、遊ぶ場所や機会が減ってきている中で、子どもの社会性やコミュニケーション能力が低下しているとおやじの会の皆さんは感じています。集団で遊ぶ中で、そういった力を身につけてほしいと、おやじたちは、一生懸命遊びます。時には、大人が子どもにも返って遊んでいる風景を見かけます。

子どもたちが集まると、異世代の子どもと一緒に遊んだり、いろいろな大人と触れ合うことによって、子どもたちは友だちを作り、知り合いがたくさんできるようになります。また、大人も、知り合いができます。飲み会もあり(大人だけ)、とても楽しいということ。退職してからの地域デビューは辛いものがありますが、「おやじの会」に入っていれば大丈夫だと、小林さんは語っていました。

家事・育児はどのようにしていますか？

小林さんは、料理は作りませんが、掃除、洗濯、などは一生懸命やっています。子育てを楽しみたかったので、育児には積極的に係わったといってい

ました。風呂はなるべく自分が入れたし、土日の面倒は全部見たそうです。また、小林さんのおつれあいは専業主婦ですが、妻からは毎日、30分のフリーフィンガ(簡単な状況説明・報告)があるといえます。小林さんとしては、妻がしなければならぬことは、妻がやり、小林さん自身はやらない、だけ

ら、「おやじの会」は夫婦でやるのではないということだそうです。小林さんのお子さんは高校3年生の男子と、中学3年生の女子ですが、子どもというものは小さい頃は理不尽な存在であるが、大きくなってくると、自分自身の嫌いなところが出てくると感じるそうです。





神田さんは夫婦共働きであるので、家事、育児は手が空いている方がやるということ。また、風呂とトイレの掃除は自分しかやる人がいないので、やっているそうです。神田さんは、共働きは当然と思っているので、でき

る方がやった方が良いと思うそうです。育児休業制度は、まだできたばかりだったので、神田さんとしては取らなかつたといいます。その代わり、おつれあい、結構長めに育児休暇を取ってくれたそうです。子どもは現在、

小学校6年生だそうです。子どもが小さいときは、大変だったし、また、忙しいときによく熱を出したが、妻が変わって面倒を見てくれて助かったといっていました。

夫婦ともに、子どもには、「自分で考えて、自分でやる」という自立性を持って欲しいと思っています。

子育てと仕事

小林さんは、部下の育成で、子育ての視点が使えろといっています。いずれも自立をさせることが、重要だからということ。神田さんも同じですが、子どもに、よく、自分で考えるようにいっています。小さいときは、自分だったらこうするが、お前ならどうするか聞くそうです。それが小学校3、4年生くらいになると、自我が出てくるので、少し厄介だといっています。仕事で、部下に自分で考えるようにというときのほうが、うまくいくような気がするそうです。

遊びについて

グループや大人数で遊ぶとき、そこ



では社会性を作ることになります。自然発生的に、ボスができたり、できなかったりすることがありますが、それぞれの学びがあるそうです。時には、おやじが大将役をつとめることもあります。勝ちたい、負けたくないと思っことが、強い子どもになることでもありと思うそうです。しかし、今の子どもたちは、自己肯定感が乏しく、非行に走ったり、引きこもりになってしまいうことも増えているそうです。そこで、「おやじの会」としては、遊び方を通じて、人間関係を養い、社会性を育てていきます。子どもを良く見て、まず

コミュニケーション能力を養わせて、友だちを作るようにさせるといいと思います。決して親の面子のための子育てをしてはいけません。

今後の展望

お二人とも、地域の「おやじの会」を大事にしていききたいと語っています。



た。小林さんは、高齢化社会になったら、退職したサラリーマンが地域に参加する必要が出てきて、そのようなときに備えて、おやじの会は、OBになってもつなかりを保ち続けたいと思っているそうです。サラリーマンが、定年後、いきなり地域には入ってこれないと思います。そのときに、参加しやすい窓口を用意しておく必要があるということなのです。

神田さんは、地域の繋がりを大事にしていきたいということです。枠にとられずに、広がっていけば良いのではないかと思っているそうです。

今は、第三小学校の「おやじの会」の運営で精一杯であり、外へ出て行くのは大変だと思っているそうです。しかし、「全国おやじサミット」という集まりもあるし、府中や多摩の「おやじの会」とのつながりも出てきています。更には、第二小学校と本町小学校の地域で、一緒に「おやじの会」を立ち上げたいという動きもあるそうです。今後、自由に参加できて、負担を平等にするにはどうしたらよいかということを考えつつ、「おやじの会」を運営していきたいと話していました。



取材を終えて

「おやじの会」の運営は大変だろうと思いますが、その中で、子どものしあわせを願い、一人前の大人への育成を図る、それも楽しくやって行こうという「おやじの会」の意気に感動しました。今後、このような活動は、あちこちで増え、子どもたちが楽しく過ごしていけることを願います。学童保育とは異なる、大人のおやじの背中を見ることが、子どもたちにとっても、有意義だと思います。(佐)

小金井

で働く

子どもの想いを メレンゲドールで叶える

クリスマスや誕生日のケーキを買うとき、表面のデコレーションはどこまで食べられるのかなと思っただけしかなかったことはありませんか？イチゴと生クリームだけしか食べられない時、少しがっかりしたのではないのでしょうか。今回は、そのケーキ上のメレンゲドールを作っている、アートキャンディ株式会社を訪ね、同社の社長、門倉美英さんにお話を伺いました。

会社の概要

アートキャンディ株式会社は、1964年12月に世田谷区で設立しました。現会長の副島正義さんのある経験がきっかけです。それは、銀座の偶然入った洋菓子店で、ケーキにのったローソクでできている人形をお子さんが食べてしまい店員さんが困っ



ている、ということでした。そこで、現会長は脱サラし、巣鴨の6帖一間のアパートに住み、1年半かけて作り上げたのが、メレンゲの人形だったのです。粉にまみれながら、失敗の連続だったそうですが、大量生産で安全、安心なメレンゲドールを作りたいという想いで、研究に研究を重ねました。そして1965年には三鷹市に工場を、それから佐賀県、熊本県にも工場を新設しました。小金井市には1985年に移ってきました。その後、大阪、九州、札幌、高松には支店を構え、2001年にはベトナムに工場を新設しました。

日本国内では、社員は約200名、男女比は2..8ということでした。正社員は73名で、その他はパート社員でほとんどが女性です。役員は男性が4名、女性が3名とのことです。2013年の社員の平均年齢は41.7歳で、勤務経験は長く、9割方が既婚者です。取引相手は大企業から中小企業まで様々ですが、製菓材料の問屋、大手の製菓会社、などです。取扱商品は、メレンゲドール、ゼリー人形、チョコレート（プレートや小物）、アイシングクッキー等です。



は6割となっていて、繁忙期は、クリスマスとひな祭りとのことでした。メレンゲドールは、常温で2年美味しく食べられるそうです。

門倉美英社長のこと

社長の門倉美英さんは、2013年に社長に就任しました。音大のご出身で、7年間ソプラノ歌手として歌っていたという、驚くべき経歴です。その後結婚し、子ども3人のお母さんとなりました。6年前までは主婦として、お母さんとして働いてきたわけです。しかし、入社してからの6年間は、常に勉強をしてきたということです。

仕事をするとなったとき、「やりたいことがあればやればよい、家事はやるから」といつてくれた、おつれあひも会社を経営していたそうです。先行きの見込みが非常に高い同社で仕事をすることを応援してくれて、家事、育児については、平日は彼が、週末は彼女が担当することになったそうです。

門倉社長のご自宅は市外にあり、女の子さんは「ママに家について欲しい」というそうです。現在は、出張が多く、また帰りが遅い日が多いですが、ストレス解消は子どもと遊ぶことなので、時間があるときは一緒に過ごしているそうです。

なぜ、会社を継ぐようになったのかは、父親の思いを継ぐということ、役員

方々から是非やって欲しいといわれたことと、メレンゲドールが好き、ということです。

会社の中の男女平等

社員は、みな会社の仕事が好きだと言っています。社員の中には、落ち込んでいたときに、メレンゲドールをもらったのがうれしくて、それがきっかけで入社したという人もいます。

会社では、正社員で男女の差はないです

が、営業は全員男性で、デザイナーは女性です。仕事の評価は能力で判断します。特に熊本の工場では、女性の管理職が多いということです。風通しの良い会社で、皆でいろいろなことを話し合いながら、アイデアを出していくというやり方です。社員がやりがいを持って作った商品は、結果的に良い商品になる。これが原点といえるもので、パート社員も、商品がかわいいと思って作っています。定年退職しても、まだ働きたいというパート社員もいます。



うです。女性は少ないそうですが、中には境遇が門倉社長とそっくりな方もいらっしゃるということ、家庭と仕事の両立を図る女性もいるようです。

近年の状況

最近、消費税が上がったり、またバターの生産が減少してきて、お客様である洋菓子店さんの手に入りづらくなっていることや、同業者も増えてきたため、価格競争に巻き込まれることもあるそうです。自社工場生産、自社デザイナーによるデザイン、手づくりで安全、安心を求められるお客様のために、アートキャンディらしい商品は何か。何ができるか。これを常に考え、アート性を持たせた新しい商品を作り出しています。

最後に

まずは、社員が働きやすい制度を整備して、社員に仕事を続けていって欲しい、社員がここで仕事できてよかったと思える会社でありたいということだそうです。また、家族あつての仕事であり、「家族の支えがなければやっていけません。とても家族には感謝している」そうです。そして、お客様に、買ってよかったと思えるような商品を、これからも提供していきたいと思っています。



取材を終えて

とてもきれいなメレンゲドールを見せていただき、感激しました。小金井にこのような素敵な会社があるとは思いませんでした。もっともっと広めていって欲しいなと思います。会社は男女平等であるということですが、それは門倉社長が社員と一緒に考えながら、お菓子作りをやっていることからきていると思いました。(佐)

国際比較

村内カリンさんに聞く

「ペルーと日本の架け橋をめざして」

インカ文明と世界遺産マチュピチュ、ナスカの地上絵あたりが、一般的な日本人の、ペルーに関する知識ではないでしょうか。それだけでない母国の良さを、国際交流協会の推進委員として日本で紹介する村内カリンさんは、ペルーの人口3千万人の約3割の人たちが住む首都リマのご出身です。



パートナーとの出会いから来日まで

医師として国際協力の仕事で日本からペルーに来ていたパートナーが、カリンさんのお兄さんと知り合ったことが縁で、90年代初めに来日しました。温暖な気候、陽気で楽しく、街角や乗り物の中にも音楽が溢れる母国ではありませんが、テロの嵐吹き荒れる厳しく不安定な時代背景の中、強い海外志向と上昇志向を持って教育学を専攻し英語も学んでいたカリンさんに、運命が用意してくれた出



逢いと言っただけでしょう。来てみた日本では、正直で勤勉な国民性に感心する一方、人の多さには驚きを通り越して怖くて、「今でも新宿や東京など大きな駅は難しい」とのことです。

家庭の温かさが身につけさせてくれたもの

その後も、通信大学で栄養学や経済学、マーケティングを学ぶなど、行動力を発揮してきました。また、「微力でも二つの国の架け橋に」と、国際交流協会の催しに参加、小金井市内でも、ダンスや料理、フラワーアレンジメントなどの教室を開催して、「きれい」、「おいしい」、「ヘルシー」と大人気です。その多才さを感じますが、どれも正式に習ったのではなく自然に身につけたものと聞き、驚きました。「厳しかった母にはダンスに出かけることは禁じられていましたから。お花も、毎週末に親戚一同が会して食事をする、その大きくて賑やかなテーブルを彩っていた母のアレンジメントを、私なりに表現しています。」と言います。幼少時から家で見ていたものを、愛娘が

日本で花開かせていることは、お母さんを喜ばせているに違いありません。

それにしても何ともうらやましいのは、その、毎週末の大昼食会です。祖母は勿論のこと、おじおばからいとこまでが揃って大きなテーブルに着き、手料理を囲んであれやこれやの話に花を咲かせるなど、今の日本では正月にあるかないかの景色です。「家が小さいから・・・」と今の日本での状況はカリンさんも残念そうです。母国での暮らしは、密度の濃いコミュニケーションで父母の大切さを身を持って知り、尊敬し、暮らしのスタイルが身につくなど、期せずして得難い教育になっているのですね。

子どものいる、日本の不思議

ペルーの治安は、一時ほど悪くはないようですが、それでも、大学生になっても子どもを迎えに行く家庭があるというのも、安全面だけでない、家族の結びつきの強さを感じさせる話です。「守り過ぎかもしれません。でも甘やかせてばかりではありません。親は子にとて厳しいんですよ。」と話していました。今は、

ペルーでも急速に少子化が進んでいるようで、1980年に5・01だった出生率は、直近では2・45です。今でこそ24才以下が50%を占めますが、少子高齢化のスピードは予想以上に早いのではないのでしょうか。カリンさん曰く、「インターネットなどで、外の世界の面白いことを知ってしまいましたからね・・・」と、日本にも通用する理由を挙げています。

女性の就業率も非常に高いようですが、大家族の中で、祖父母が保育を担当するのが普通で、保育園不足といった事情は無いとのこと。それよりカリンさんが気になるのは、母国に比べての日本における男女不平等と、ひとと同じことをしたがる・させたがる風土だと言います。「ランドセルや傘の色、ノートの表紙を揃える理由が一体どこにあるのでしょうか?」と言っていました。

カリンさんらしい家庭

パートナーはかなり多忙なもの、出来る範囲で家事や育児を手伝ってくれます。母国では、夫が家主として構えています。実は妻が強いのですよ。」



とも言っていました。ただ、記念日などには、買ったモノよりも、手作りギフトや心づくしの料理が並ぶ暖かい家庭であることは間違いないようです。日本に来て、大好きになったお寿司も並ぶのかもしれない。ご自身、強い意志と巡り合わせで母国を離れたカリンさん、家庭内の会話はスペイン語とのことですし、お子さんには、とりわけ息子さんは、今から積極的に外国に行かせています。ペルーにも行き、良いところ悪いところ両方見て来たことは、糧になるはずと言います。

やりたいことはまだまだいっぱい

生け花（嵯峨御流）やバイオリンを習い、宮本武蔵など日本の偉人にも興味があるそうですから、これからますます活動は広がりを見せそうです。「どこにでも図書館や医療機関があって、秩序と、人々の間の尊敬が存在する。」と褒めてくださった日本の良さをもっと大切にしたいと思わせられた、カリンさんとの出会いです。（坂）

《村内カリンさんにペルー料理をご紹介いただきました》

アロース タパド

ペルーでは、『不思議な宝箱』とも言われ、白いふつのご飯のように見えますが、食べてると…、とっても楽しいメニューです。

〈材料〉 6人分

- ・ごはん……………3合
- ・パセリ……………3茎
- ・パルメザンチーズ…適量

〈ソース〉

- ・牛ひき肉……………150g
- ・たまねぎ……………1個
- ・にんじん……………1本
- ・トマト……………4個
- ・にんにく……………2片
- ・卵……………3個
- ・レーズン……………100g
- ・グリーンオリーブ…6個
- ・サラダ油……………大さじ3
- ・塩……………小さじ1.5
- ・クミン……………小さじ1
- ・こしょう……………少々
- ・水……………150cc



【調理例】アロース タパド (写真上)

〈作り方〉

『ソースを作る』

- ①たまねぎはみじん切りにする。にんにくはすりおろす。にんじんは5mmくらいの角切りにする。トマトの皮は湯むきし4つに切る。卵は茹でて、1cmくらいの大きさに切る。
- ②鍋でサラダ油を熱し、中火でたまねぎ、にんにくを炒める。たまねぎがしんなりしたら、牛ひき肉を入れて炒める。肉の色が変わったら、にんじん、水、塩、こしょう、クミン、トマトの順に加えて混ぜる。
- ③ふたをして中火で10分程度煮たら、トマトをつぶしてさらに5分程度煮る。
- ④レーズン、グリーンオリーブを入れて、火を止める。

『盛り付ける』

- ⑤大きめの茶わんの内側を水で濡らし、ご飯をかるくよそい、茶わんのふちにご飯を押し付けるようにして、真ん中に大きなくぼみを作る。くぼみにソースを入れる。きざんだ茹でたまごをソースの上のにせ、平らにする。
- ⑥茶わんの上に、皿を裏返してかぶせる。茶わんごと、お皿の上にひっくり返す。パセリを細かくちぎってちらし、パルメザンチーズをふりかける。

ゆる家事って、なあに？

～今の暮らしに魔法をかけよう～

浅倉ユキさん(通称 あな吉さん)を迎えて

ゆるベジ料理研究家のあな吉さんは、肉、魚、卵、乳製品、砂糖、みりん、酒、だしを一切使わないベジタブル料理教室を主催し、ESSE やオレンジページでもお馴染み、著書も多数出されています。今回の講演会は、女性のストレスを下げるお手伝いをテーマに、ゆる家事、ゆるベジについて教えてくれました。「女性は自分をラクにしてご機嫌でいましょう。家事を頑張ってイライラしてもしようがない。ご機嫌でいることこそ、家族の幸せです」とあな吉さん。楽しく家事をする方法、時間の上手な使い方、野菜をおいしく食べる秘訣など、アイデア満載の講演会の様子をお伝えします。



「暮らしを変えよう！」 ゆる家事レッスン」

あな吉さんは大学卒業後、1人暮らしを謳歌されていました。しかし結婚して子どもを産むと、忙し過ぎて人生がつまらなくなったそうです。でも頑張ってもう少しくラクになる、ラクになると思いながら3人の子どもの産みましたが、これに介護が加わることを考えたらうつな気持ちになってしまいました。そこであな吉さんは「待っているだけではダメ。自分でラクにしなくては」と思い、外国を旅した経験から、外国は朝食が毎日同じメニューでも構わないのに対し、日本はメニューも多く、色とりどりのお弁当をつくるなど女性の家事労働時間が長すぎるということが問題ではと考えました。女性が家事を頑張ると日々不満を募らせて暮らすより、自力で家事労働を減らしてストレス値を減らしたほうがいいのではと思ったそうです。それがゆる家事です。

あな吉さんが考える主婦の4重苦、それは①エンドレス感、②仕事内容が決められていない、③減点主義、④誰にでもできる簡単な仕事と思われていることの4点です。それがモチベーションを下げない機嫌になる原因とこのことです。その解決策として自分のイヤポイントを見つけようと言います。「私の場合、私は掃除機が嫌いでした。なぜ嫌いかを考えると実

は掃除機をかけることが嫌いではなく、掃除機のコードのコンセントを差し替えるのが嫌いということに気がつきました。ならばコードレス掃除機にすれば解決ですね。私の夫は、掃除機の吸引力が弱いのが嫌で、きちんと吸い取れることが重要でした。ならば掃除機の吸引力が強いのはコードつきなので、夫はコードつきで吸引力の強い掃除機がいいわけです。人それぞれに自分のイヤポイントが違うので、自分のポイントを見つけてそれを解決できるよう考えることが大事なのです」とあな吉さん。

他にも、子どもに料理をつくる過程を説明して価値を上げる「価値上げ」、子どもに見ている前でつくる「見せ家事」など、あな吉さんは「気が付いてほしいなら、気が付いてもらえる工夫をして、ハッピー主婦を目指しましょう。家族はお母さんがご機嫌な方がうれしいのですから」と言います。家事を頼む時にも工夫があります。あな吉さんは子どもに保育園時代から家事をさせていますが、そのポイントは頼むことを習慣化することで、頼む日、頼まない日があるのはダメだそうです。また最初は何もできなかった夫も、10年たった今では朝からクックパッドで「何をつくらうかな」というまじになったそうです。ここでも気をつけていることは、お願いしたら口出ししない。ほめる時はほめるのだそうです。あ

な吉さんに「大人にはご機嫌でいる責務がある」と力説され、本当にそうだなと感じました。

「野菜を食べよう！」 ゆるベジ料理」

第2部は、ゆるベジについて教えてもらいました。ゆるベジ料理とは野菜中心のレシピで、子どもが苦手な不足しがちな野菜を、たくさん食べたくなる料理です。味付けも従来のブイヨンやバターなどのだしを使うと、どの野菜を使っても味付けはみんな同じになってしまうので、あな吉さんのレシピは、野菜本来のおいしさを感じるために、理科実験のごとく、塩などの味付けを小さじ1、次に1.5と全部試して、黄金の比率を作り出し



たレシピです。

ごはんは、つくらなければ食べられませんが、だからゆるベジはつくりやすく簡単なことが重要です。①材料は少なく、②工程数が少なく、③計量さえすれば誰でもつくれる、④便利な道具を使うことを推奨しています。「食生活はハレとケが大切。毎日をこちそう続かせず、身体を休めるケの日も必要です。子どもが嫌いな食材は、好きな食べ方を見つけてあげればいい。例えば大豆が嫌いなら、枝豆にすればいいのです。また売っているお惣菜は腐らないための添加物が多いので、なるべく家でつくるほうが健康的です。いかにラクにつくるかを真剣に考え、5分10分できるメニューをたくさん集めています」とあな吉さん。また献立のメニューは1日前に決めて、スモールステップ化すると家事はラクになると言います。「泥つきじゃがいもは最初から調理しようとする面倒ですが、前日の夕飯に洗い物と一緒に洗って泥を落とし、次の日の朝ご飯を作りながら茹でておく、当日の夜すぐに調理できますね」。そして明日の献立を決めたら書いておく、というメモの習慣も大事だそうです。

「ごはんに手を抜いたら必ず身体に影響します。子どもの頃に野菜を食べずに育ったら、野菜を食べない大人になる可能性が高くなります。健康でなければ夢

は追いかけれません。だから忙しくても家庭で料理を作れるようなシステムを考えましょう」とあな吉さん。「家族の口に入るものは、作る人次第です。皆さん自身とご家族の生活が少しでもヘルシーになることを願っています」と締めくくられ、食の大切さを再認識した講演会でした。

取材を終えて

途中にゆるベジ料理の試食がありました。自然な味わいでおいしい野菜が簡単にこんなにおいしく食べられるのかとびっくりしました。講演後に多数の質問があり、皆さんの関心の高さが伺えました。(高)



試食品(サトイモとつぶつぶアーモンドのチョコディップ、青菜クラッカー)

男女共同参画 施策のご紹介 『DV防止啓発冊子を作成しました』

多摩3市男女共同参画推進共同研究会(小金井市、国立市、狛江市)では、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用し、平成26年度は人権(DV防止)をテーマとして研究してきました。

DV防止啓発の一環として、DVの特徴、チェックシート、相談先等を掲載した冊子を作成しました。本冊子は、小金井市役所第2庁舎1階正面玄関のラックに配架しているほか、企画政策課男女共同参画室等でも配布しています。市のホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。【市ホームページURL】<http://www.city.koganei.lg.jp/>

●ドメスティック・バイオレンス(DV)とは?

夫婦や恋人など親密な関係にある人(あった人)への暴力のことです。また、若い恋人同士の間で起こるDVを「デートDV」といいます。



『第4次男女共同参画行動計画 —推進状況調査の報告について—』

■計画の概要

市では、男女共同参画社会の実現のため、平成 25 年 3 月に第 4 次男女共同参画行動計画を策定しました。

本計画は、計画期間を平成 25 年度～ 28 年度とし、基本理念を「人権尊重とワーク・ライフ・バランスを軸とする 男女共同参画の実現をめざして」と定めています。

この基本理念を具体的に推進していくため、基本目標 1「互いに認めあい、男女平等意識を備えたひとを育て」、基本目標 2「ワーク・ライフ・バランスの実現した暮らしをめざす」、基本目標 3「人権を侵害する暴力を許さない社会づくりで安心を守る」、基本目標 4「男女共同参画を総合的に推進する仕組みをつくる」と、4 つの基本目標を掲げています。

■推進状況調査の改善ポイント

平成 25 年度は本計画の実施初年度にあたり、今回より、男女平等推進審議会からの提言をもとに、計画の進捗管理、評価の仕組みづくりを進めるため次のように見直しました。

新たに男女共同参画の 6 つの視点をチェックポイントに設け、視点ごとの自己評価を行ったうえで、今後の課題や方向性を記載するなど、実施効果を多角的に把握することができるよう記載方法の改善を図るとともに、実施内容には参加者の男女比を可能な限り記載し、性別による偏りが無い等、今後の事業の参考とします。

【男女共同参画の 6 つの視点】

- ① 固定的な性別役割分担意識の解消や男女平等意識・人権意識の育成
- ② 仕事と生活が両立できる社会環境づくりや意識の育成
- ③ 男女の生活の安定と自立を促す取組
- ④ 課題を抱える男女の支援や人権を守るための支援
- ⑤ 男女がともに様々な社会参加・方針決定過程参加をするための環境づくり
- ⑥ 他部署や関係機関との連携による男女共同参画の推進

■平成 25 年度推進状況調査結果

基本目標 1 では 24 事業、基本目標 2 では 51 事業、基本目標 3 では 28 事業、基本目標 4 では 18 事業、合計 121 事業の実施内容等について調査しています。

○具体的な取り組み

〈審議会等女性の参画推進〉

男女共同参画社会の実現のためには、女性が政策決定の場へ参画することが重要です。

また、審議会等の委員構成は、男女に偏りが無いように配慮することが必要です。改選時には、できるだけ女性委員の登用を図り、能力を発揮する機会を拡大に努めました。(下表)

〈男女共同参画シンポジウム開催〉

男女共同参画社会基本法が平成 11 年 6 月 23 日に公布・施行されたことにちなみ、6 月 23 日～ 29 日を「男女共同参画週間」と定め、内閣府をはじめ各自治体で啓発行事を実施しています。

本市も、「男女平等都市宣言」「男女平等基本条例」および「第 4 次男女共同参画行動計画」等の浸透と偏見のない社会を形成するため、啓発事業を実施しました。

平成 25 年 6 月 30 日に「男女共同参画社会実現の先～仕事と家庭、私たちの暮らしはどう変わるのか～」をテーマとした講演会を開催しました。(男女共同参画情報誌「かたらい」発行)

男女共同参画施策の推進のため、市民スタッフ制を導入し、情報誌「かたらい」を発行しています。

平成 25 年 9 月に第 38 号特別企画「東京しごとセンター多摩に行こう!」、平成 26 年 3 月に第 39 号特別企画「伝統に生きる!」を発行しました。

今後も、市民に男女共同参画に関する情報を発信し、意識啓発を図っていきます。

〈こがねいパレット〉

男女共同参画社会実現のための啓発事業として、学習・交流事業を市民実行委員が企画、運営し実施しています。

平成 25 年 11 月 10 日に「ビューティフルママの時間割～子育てと仕事を楽しく Mix～」をテーマとした講演会、ワークショップを開催し、こがねいパレットに賛同する市民団体の紹介・展示等を行いました。

「こがねいパレット」は、「いろいろな色を持つ、いろいろな人たちが自分の色を大切に、出会い、交流し、それぞれの色を認め合い、ときには、いくつかの色がまざりあって、新しい色を織りなしながら、誰もが楽しく幸せに暮らせる豊かな社会を作り出そう」という願いが込められています。

■男女平等推進審議会からの提言

平成 27 年 1 月 29 日に、市の附属機関である男女平等推進審議会から、本計画推進状況調査報告書(平成 25 年度実績)についての提言をいただきました。

○提言書に記載されている各施策についての意見(施策名を抜粋)

- ▽人権尊重・男女平等意識の普及・浸透について
- ▽男女共同参画を推進する教育・学習の推進
- ▽男女がともに能力を発揮できる就業環境づくり
- ▽家庭生活との両立支援
- ▽暴力の未然防止の意識づくり
- ▽相談・連携体制の整備・充実
- ▽政策・方針決定過程への男女の参画
- ▽市民参加・協働による男女共同参画の推進
- ▽庁内の推進体制の充実・強化

■その他

報告書及び提言書は、情報公開コーナー(市役所第二庁舎 6 階)、図書館本館、企画政策課男女共同参画室(市役所本庁舎 2 階)及び市ホームページで閲覧できます。

議会・行政委員会等女性の参画率

人数等	小金井市				多摩 26 市				東京都			
	※平成 26 年 4 月 1 日現在				※平成 25 年 4 月 1 日現在				※平成 24 年 4 月 1 日現在 ※議員数、行政委員数は平成 25 年 4 月 1 日現在			
	機関数	総数	女性の人数	女性比率	機関数	総数	女性の人数	女性比率	機関数	総数	女性の人数	女性比率
議会・行政委員会等												
議会	—	24	10	41.7%	—	639	169	26.4%	—	125	25	20.0%
行政委員会 (教育委員会ほか)	6	34	6	17.6%	137	816	98	12.0%	9	92	10	10.9%
附属機関 (男女平等推進審議会ほか)	40	512	178	34.8%	860	11,983	3,436	28.7%	76	1,175	293	24.9%
その他審議会等 (行財政改革市民会議ほか)	7	70	23	32.9%	546	9,107	3,421	37.6%	85	962	169	17.6%
管理職の在職状況	—	69	12	17.4%	—	2,549	344	13.5%	—	3,139	550	17.5%

編集後記

女性の制度などはとつづくの昔に最先端にきている。平等を妨げているのは、相変わらずの男性社会だと思っていました。イクボスやイクメン、などと共に親父の会など、男性も若い人ほど自由になつてきているようです。(佐藤百子)

主婦が家事を頑張っても認められずにつらいという思いに、あな吉さんは周りから褒められたり、より短い時間で楽しくできたりする家事の工夫を、具体的に教えてくれました。家事の認識が変わりました。(高島佐保子)

定年退職後取得した保育士の資格で、新しい仕事に就きます。永年の会社人視点と子どもを見る視線の両方が生きる記事をお送りしたいと思います。今回の村内さんには、意欲、バイタリティ、向上心の刺激をいただきました。(坂井文枝)

大人が地域参加し、子どもが社会性を身につける。おやじの会の活動は、子どもにとっても大人にとっても大事なことを楽しみなから実現してゆく試みだと思いました。(濱野智徳)

本号では、ステキな女性が経営されている装飾菓子の企業や明るく前向きになれる取組・活動を取材させていただきました。ご協力いただきました皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。(男女共同参画室)

「かたらい」は、公募による市民編集委員が、企画・取材・執筆を行っています。

小金井市男女共同参画情報誌「かたらい」第 41 号 2015 年(平成 27 年) 3 月発行/企画・編集:かたらい編集委員会
発行:小金井市企画政策課男女共同参画室 TEL:042-387-9853 FAX:042-387-1224
編集委員:佐藤百子 高島佐保子 坂井文枝 濱野智徳 男女共同参画室/監修:高橋道子(東京学芸大学名誉教授)